

ができません!)。最後のメイトの形もよく出てくる
きれいなメイトです。

図13 黒番 (快成一透弥戦)



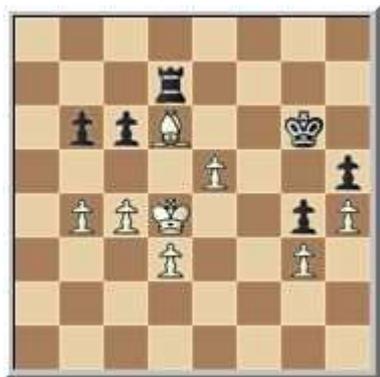
入賞をかけた大一番、逆転を狙う黒にチャンスが訪れます。

1... Qxf1+! 2. Kxf1 Ng4+ 3. Ke2 Nxe3 4. Kxe3
∞ (形勢不明)

f7にいるルークを活かして、クイーンサクリファイス!これで黒のエクステンジアップとなりましたが、白にもセンターに強力なパスポーンが残っているため、どちらにもチャンスがある局面です。

その後次の局面になりました。

図14 白番

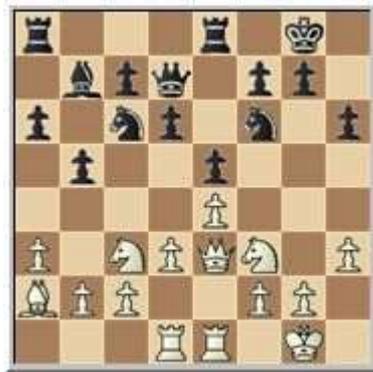


1. c5?! (1. b5! が強力。白キングが進軍するルートを作るのがポイント) 1... bxc5? (2. b5! ならば白キングが進めません) 2. Kxc5!+

白キングが攻撃に参加してきました。ここからc6のポーンをとり、bポーンを進めていく攻めが強烈です。黒も粘りましたが、最終的にはbポーンをクイーンにした白が勝利を収めました。

自分ならばどのようにゲームを進めていくか考えてみてください。攻める?守る?それとも・・・。

図15 黒番 (勇希一琉菜戦)



1... Ne7!!

ナイトをより良く働かせる、マスター級の1手です。派手なタクティクスも大事ですが、上級者同士の戦いはこのような地味な手で差がつきます。

黒のアイデアはNe7→Ng6→Nf4として、白のキングを追い詰めることにあります。c6のナイトとf4のナイトの働きを比べてみてください。

このあと、白もうまく反撃し、迎えたのが下の局面。

図16 黒番



白は直前の手で強くQd2とぶつけてきました。逃げる手もありますが、チャンスの時は厳しく行きましょう。

1... Bxe4!

1... Qxd2?! では2. Nxd2とされて不満です。ビショップでナイトをとることにより、c2のクイーンを守っているのがポイントです。

2. fxe4 Qxe4 3. Ng3 Qe5!±

黒は1ポーンアップし、白キングも狙っています。攻めは最後まで途切れず、黒の勝利となりました。

(山田 弘平)